

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員と地域おこし協力隊員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 永興ながちか 啓はじめ

キンギョソウの栽培

1 経営上の特性

近年、新しい品種の開発や品種改良が進み、明るい色の花が咲く品種が多く作られており、直売所での販売に適しています。

この花は作型によれば露地でも栽培が可能ですが、庄原市では無加温で良いのでハウスでの栽培がより有利です。



2 作型（無加温・ハウス栽培）

- ▼播種：7月上旬
 - ▼定植：8月上旬
 - ▼切り花：10月中旬～11月下旬
- ※越年切りでは4月下旬～5月下旬にも切り花にできます。
（越年切りについては「④生育中の管理」を参照してください。）

3 栽培の方法

①品種 栽培特性により、4つのグループに分かれています。庄原市での栽培に適しているのは、メリーランドシリーズ、アスリートシリーズ、レジェシリーズなどが

含まれるグループです。花の色が豊富で、白、黄色、ピンクなどいろいろあります。

②播種（種まき） 6月から7月に播種し、高温期で育苗するため、カンレイシヤ（木綿やナイロン製の目の粗い布）などで覆いをします。

なお、キンギョソウは種子が小さいことと、芽が出るときに光が必要となることから、覆土はしません。水は箱の底から吸わせませぬ。③定植 本葉4～5枚くらいで24センチ×12センチくらいの間隔で植えます。

肥料はやや多めを好むため、チッソ成分量で25キロ程度を施用します。基肥は成分量総量の3分の2くらいとし、残りは追肥で補います。

④生育中の管理 秋に切り花したキンギョソウの株の上に、不織布などをじかに掛けるか小トンネルを張って防寒対策をしておけば、春にも切り花にできます（越年切り）。病気では灰色かび病に注意が必要です。

⑤出荷 花もちをよくするため、できるだけ鮮度保持剤を使用します。

問い合わせ

農業振興課農業振興係
☎0824・73・1132

地域で「生き生き」 獣害対策その一歩先へ！

地域おこし協力隊 草谷くさたに 夏枝なつえ

獣害対策の基本は2つ

今月をもちまして協力隊の任期が満了となります。二年間のご愛読ありがとうございました。

最後に復習をします。獣害対策の基本を覚えていきます。

- ①動物の餌になるものを放置しない（餌の種類は2種類。食べたら人間が怒る餌と、食べても怒らない餌がある。）
- ②動物が安心して隠られるひそみ場所をつくらない

この2つの基本はどの動物にもあてはまります。「ちょっと食べられた」はやがて大きな被害につながります。被害を我慢したり、見過ごしたりすると、食害が常習化し、野生動物がすみ着いてしまいます。

イノシシの駆除は生活習慣病の投薬のようなものです。獲っても毎年きりが無いという場合は、その田んぼや畑にイノシシが来る原因が考えられるため「体質改善」が必要です。環境整備で被害のリスクを下げていくことができます。

また、予防を心掛け、できるだけ「被害」という病気にかからないのが理想です。被害に遭う前に作物

を囲うなどして、おいしいものに気づかれないようにしておくことで予防になります。

目的は残し伝えていくこと

さて、このコーナーではたびたび「共同畑」で獣害対策の取り組みをするグループを紹介してきました。七塚町の「農楽会」もその一つです。農楽会はもともと仲間共同畑の活動を行っており、獣害対策の集落点検と先進地視察を経て、この3月に弾ポールの電気柵を設置することになりました。

共同畑で採れた野菜は、九日市や朝市への出荷や、古書店の一角での無人販売などでたくさんの方が楽しみにしています。そして、畑の活動自体は仲間とのコミュニケーションの時間です。どちらも大切だからこそ防除や予防の行動につながるでしょう。

これからの獣害対策は地域で守りたいもの、地域に残したいもの、未来へ渡したいものの観点から多世代分野で共に考えていく時代です。庄原市のすばらしい地域資源を後世に残し伝えていくためにも、しっかり対策に取り組ましましょう。

問い合わせ

商工林業課林業振興係
☎0824・73・1124